

2023年10月15日

「赦しを与え続ける」

ヨハネによる福音書 1:29-34

竹島 敏牧師

洗礼者ヨハネは、霊が鳩のように天から降って、イエスの上にとどまるのを見、この人こそが神の子羊・救い主であると証ししています。そして使徒言行録においては、反対者達に打ち殺されてゆく殉教者ステファノが見上げた天には、神の右に立っておられる主イエスの姿があり、ステファノが「この罪を彼らに負わせないでください。」とイエスに執り成したことが記されています。はるか昔のこの時代も今と同じように、ひとつの天の下で暮らしていながらある人達には申し分のない生活があり、ある人達は自分達ではどうすることもできない状況におかれている、そのような不条理があります。ひとつの天を司っておられる神は、昔も今もその天の下で繰り広げられている悲しむべき状況を、どのような面持ちで見つめておられるのでしょうか。

分裂し、混乱した今の世にあって、ヨハネやステファノが見上げた天を私たちも見上げて、どこまでも忍耐して赦しを与え続けておられる主を見出す必要があります。赦し合い、愛し合うことをひたすら待ち望んでおられる、その主イエスの赦しの感性に与って、本質的な愛の交わりを作ってゆく、地味で地道な働きが必要なのです。宗教や思想・信条、様々な立場や考え方の違いなど、それがその人の根幹を支える事柄であればあるほど、譲れないと感じることもありましょう。しかしそのような時であっても、同じように救いを求めて歩み続けているその人達と共に、天を見上げて天が開かれるのを待ち望むことが、この分裂し、混乱した今の世を生きる私たちに求められているのだと思うのです。